

研究種目：基盤研究(B)
 研究期間：2007～2008
 課題番号：19330133
 研究課題名(和文) コミュニティソーシャルワーク実践の体系的なスキルの検証及び教育法の開発
 研究課題名(英文) The verification of the systematical skill of the community social work practice and the development of the teaching method
 研究代表者
 宮城 孝 (MIYASHIRO TAKASHI)
 法政大学・現代福祉学部・教授
 研究者番号 70276864

研究成果の概要：本研究は、今後のわが国における地域社会の福祉ニーズに対応したコミュニティソーシャルワーク実践について、適用度と普及可能性の高いスキルの体系化を図り、全国の関係機関に対する量的な調査によって、実践現場における実態を実証的に分析した。さらに、それらのスキルを適用する上での阻害要因や促進要因、大学などの教育機関や実践現場における養成におけるスキル獲得のための要件を、社会福祉の各領域や課題に応じて明らかにした。

交付額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|-----------|------------|
| 2007年度 | 3,900,000 | 1,170,000 | 5,070,000 |
| 2008年度 | 4,400,000 | 1,320,000 | 5,720,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 8,300,000 | 2,490,000 | 10,790,000 |

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：コミュニティソーシャルワーク、スキル、教育法、実習教育、開発

1. 研究開始当初の背景

国民生活をめぐる大きな環境変化の中にあつて、国民の生活危機に直接対峙し、臨床的また実践的に対応するソーシャルワークのあり様が、国民のセーフティネットの構築を図る上で、今後ますます重要となっている。

わが国におけるソーシャルワーカーの国家資格である社会福祉士の養成と任用の今後のあり方について関係団体で論議がなさ

れ、2009年度より新たな養成カリキュラムが開始されることになった。

コミュニティソーシャルワーク実践のスキルは、地域社会における急速な少子高齢化などの将来の環境変化を想定した包括的なニーズ・アセスメント、効果的な支援プランの作成と実施、さらに地域住民の意識変容と組織化、関係機関・団体のネットワークの構築、地域の社会資源の改善と開発など相当高度な内容を含んでいる。

このようなわが国の今後の社会的なニーズや地域社会の変容を踏まえた、より効果的なコミュニティソーシャルワークのスキルの内容を体系化し、それらを学術的に検証した研究は、これまでに行われていない状況にある。

2. 研究の目的

(1) わが国の今後の社会的なニーズや地域社会の変容を踏まえた、より効果的なコミュニティソーシャルワーク実践のスキルの内容の体系化を図ること。

(2) 設定されたコミュニティソーシャルワークのスキルの実践についての実態を明らかにし、その促進要因や阻害要因を明らかにすること。

(3) 体系的なコミュニティソーシャルワーク実践のスキルを向上させる大学などの教育機関における課題、ソーシャルワーカー個人の資質を含めた課題、スーパービジョンなど組織におけるスキル形成上に関する課題を明らかにすること。

3. 研究の方法

(1) 2000年の社会福祉基礎構造改革や介護保険の実施以降の地域福祉の動向やニーズの変化に伴うコミュニティソーシャルワーク実践の意義とそのスキルの内容の体系化を図るために、先行研究や近年の政府の施策の動向などを含めて理論的な整理を行った。

(2) 量的な調査としては、全国の市町村から人口規模による層化無作為抽出によって抽出した500の自治体のソーシャルワーカーに、コミュニティソーシャルワーク実践に関するスキルの実態、他機関との連携、実践上の阻害要因等の実態調査を行った。

(3) 児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉、災害時支援等の各領域、課題ごとにコミュニティソーシャルワーク実践の特徴的な内容について、先進事例などの分析などによって明らかにした。

(4) コミュニティソーシャルワークのスキルを習得するための大学などの教育機関における実習教育や現場の実践家の養成などのあり方や課題について、先進事例の分析や養成研修などにおける調査によって実証的に明らかにした。

4. 研究成果

本研究は、今後のわが国における地域の福祉ニーズに対応したコミュニティソーシャルワーク実践において適用度と普及可能性の高いスキルの体系化を図るとともに、それらのスキルを適用する上での阻害要因、促進要因、スキル獲得のための要件を明らかにすることを目的としている。

まず、2000年の社会福祉基礎構造改革や介護保険の実施以降の地域福祉の動向やニーズの変化に伴うコミュニティソーシャルワーク実践の意義とそのスキルの内容の体系化を図るために、先行研究、これまでのフィールドにおけるアクションリサーチにおける事例分析、近年の政府の施策の動向などを含めて理論的な整理を行った。それらは、コミュニティソーシャルワーク実践のスキルの構成原理、コミュニティソーシャルワークの実践者の資質と態度として、認知と価値判断、知識、スキルについて整理を行った。

その上で、全国500の自治体を無作為抽出し、社会福祉協議会、地域包括支援センター、障害者指定相談事業所、子育て支援センターにおけるコミュニティソーシャルワークに関する業務の実態と他機関との連携の実態と課題、コミュニティソーシャルワークを行うにあたっての阻害要因等について量的調査を実施し、分析を行った。この調査結果から、まだ現場のソーシャルワーカーが、地域の福祉ニーズを十分に把握し得ていない実態や、地域におけるネットワークを形成するスキルについて十分に習得していない実態などが明らかになった。

また、各研究分担者が、高齢者、障害者、児童・子育て領域、さらに震災時などの領域別・課題別のコミュニティソーシャルワークの展開上の特徴や課題について、フィールドワーク等の分析によって明らかにした。

さらに、大学などの教育機関における実習、

現任者の研修におけるコミュニティソーシャルワークのスキル習得のための養成法のあり方について、調査やフィールドワークによって分析している。

これらの研究成果を、研究代表者、研究分担者、研究協力者計 16 名による論文で構成する研究報告書として刊行した。報告書の構成は、以下のとおりである。

第 I 部 総論

- 第 1 章 地域福祉をめぐる動向と新しい地域福祉専門職－地域福祉コーディネーター－
- 第 2 章 コミュニティソーシャルワークにおけるスキルの体系化に向けて－その養成と実践者の資質・態度－
- 第 3 章 コミュニティソーシャルワーク実践の現状と課題「福祉専門職の地域生活支援スキル（技法）に関する全国調査」結果より

第 II 部 各領域・課題におけるコミュニティソーシャルワーク実践

- 第 4 章 大阪府におけるコミュニティソーシャルワーカーにおける実践の特徴－大阪府コミュニティソーシャルワーカー配置促進事業事例調査から－
- 第 5 章 子ども家庭福祉領域におけるコミュニティソーシャルワーク
- 第 6 章 地域子育て支援センターの実践－ピアサポート機能およびソーシャルワークへの着目－
- 第 7 章 高齢者のストレングス視点による支援方法とコミュニティソーシャルワークへの活用
- 第 8 章 高齢化が進んだ公共住宅団地におけるコミュニティソーシャルワークのニーズと可能性
- 第 9 章 介護力が脆弱化した要介護者の在宅生活を支援する地域のネットワークに関する基礎的研究
- 第 10 章 コミュニティソーシャルワークの展開過程における「地域アセスメント」と「課題の普遍化」
- 第 11 章 社会福祉の運営管理とコミュニティソーシャルワーク実践－社協版バランス・スコアカード

の開発のためのパイロット研究－

- 第 12 章 コミュニティソーシャルワークのプログラム評価－裁量・参加・エンパワーメント－
- 第 13 章 災害時におけるコミュニティソーシャルワーク実践に関する研究

第 III 部 コミュニティソーシャルワーク実践における養成・教育

- 第 14 章 精神障害者の地域支援におけるコミュニティソーシャルワーク教育方法の開発
- 第 15 章 コミュニティソーシャルワーク実践と実習教育－コミュニティソーシャルワーカー養成のための実習のプログラム－
- 第 16 章 コミュニティソーシャルワークにおけるスキルの教育－社会福祉協議会における実習指導を例に－

本研究の結果から、わが国においてコミュニティソーシャルワーク実践を体系的かつ効果的に展開する上で、各実践家の養成を図ることは、当然必要であるが、コミュニティソーシャルワークを展開できるシステムの整備を図ることが、現場のソーシャルワーカーが実践を展開していく上で大きな促進要因になることが明らかになっている。その場合、最初からシステムの整備を図るのではなく、地域社会の変容が著しく、福祉ニーズが多発している地域や今後予測される地域などをモデル的なプロジェクトとして設定し展開していくことが、他職種チームや地域住民の共通理解、実践方法の検証やその後の波及性、システムの開発・整備につながることを提起したい。

本研究は、我が国の現段階におけるコミュニティソーシャルワークのスキルについて、現場の実態を実証的に分析し、各領域における普及上の課題を明らかにしたものとして、今後の我が国のコミュニティソーシャルワーク研究において、重要な意義を有するものと考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

- ① 宮城 孝 「コミュニティソーシャルワークの展開過程」『コミュニティソーシャルワーク』第1号, 2008, pp. 25-34, 査読無
- ② 田中 英樹 「コミュニティソーシャルワークの概念とその特徴」『コミュニティソーシャルワーク』第1号, 2008, pp. 5-17, 査読無
- ③ 宮城 孝 「コミュニティソーシャルワークと社会福祉専門教育」『コミュニティソーシャルワーク』第2号, 2008, pp. 5-15, 査読無

[学会発表] (計1件)

- ① 宮城 孝 「コミュニティソーシャルワーク実践—その可能性とスキルの体系化をめざして—」日本地域福祉学会第23回大会, 2009年6月21日, 中部学院大学

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]

無

6. 研究組織

(1)研究代表者

宮城 孝 (MIYASHIRO TAKASHI)
法政大学・現代福祉学部・教授
研究者番号: 70276864

(2)研究分担者

和田 敏明 (WADA TOSHIAKI)
ルーテル学院大学・人間発達学部・教授
研究者番号: 60409315
池田(泉) 雅子 (IKEDA (IZUMI) MASAKO)
北星学園大学・社会福祉学部・教授
研究者番号: 90222900
伊藤 嘉余子 (ITO KAYOKO)
埼玉大学・教育学部・講師
研究者番号: 10389702
小野 敏明 (ONO TOSHIAKI)
田園調布学園大学・人間福祉学部・教授
研究者番号: 10257058
神山 裕美 (KAMIYAMA HIROMI)
山梨県立大学・人間福祉学部・准教授
研究者番号: 80339473
小松 理佐子 (KOMATU RISAKO)
日本福祉大学・社会福祉学部・教授
研究者番号: 40301618
田中 英樹 (TANAKA HIDEKI)
早稲田大学・人間科学学術院・教授
研究者番号: 10315179
中島 修 (NAKASHIMA OSAMU)
東京国際大学・人間社会学部・講師
研究者番号: 80305284
菱沼 幹男 (HISHINUMA MIKIO)
文京学院大学・人間学部・助教
研究者番号: 80406347
藤井 博志 (FUJII HIROSHI)
神戸学院大学・医療福祉学部・准教授
研究者番号: 60336815
裴 瑢俊 (BEI YONZYUN)
長崎ウエスレヤン大学・現代社会学部・准教授
研究者番号: 90396242

(3)連携研究者

無